

国試&マッチングの最新情報をお届けします。

2011

第32巻第9号 平成23年10月15日発行(毎月1回15日発行) 昭和58年7月9日 第三種郵便物認可 ISSN 1349-2268

# Kokutai

# 11

月刊 医師国試対策

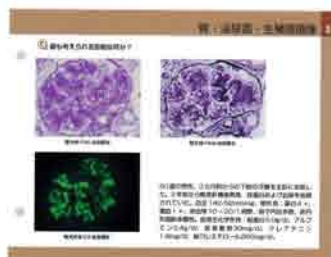
**新**

## 試験委員

から占う

# 106国試

専門分野を**徹底分析**  
出題テーマを見抜く!!



### Study

Dr.momoの画像診断 ■正常像との対比で学ぶ読影法「胸部」

Case of the Month ■読者応募型の画像診断クイズ「病理画像」

画像トレーニングカード ■重要疾患のポイントを整理「腎・泌尿器・生殖器」

### Information

特別コラム ■チェルノブイリ原子力発電所の事故後の影響

医学教養“超”入門 ■医学の歴史を振り返る「抗生物質の発見」

諸国医療事情 ■海外事情の最前線「緩和ケアにおける音楽療法」

医学教育出版社  
<http://www.igakuyoiku.co.jp>

## 大江 元樹医師

(茅ヶ崎徳洲会総合病院 呼吸器内科部長)

### 笑顔になれる診療をめざして

「もともとは宇宙について勉強をしたくて京都大学の宇宙物理学科に入ったのですが、好きなことを仕事にしようと思い、大学卒業後に手打ちうどん屋になりました」。現職からは考えられない意外な経歴をもつ大江元樹医師。現在は茅ヶ崎徳洲会総合病院の呼吸器内科部長であり、また臨床研修部長・研修委員長として研修医の指導にも熱心に取り組んでいる大江医師だが、医師の道を選んだきっかけは何だったのだろうか。

「うどん屋で働いていたときに、父と祖母が立て続けに病気になりました。それまで好き勝手にやらせてくれた家族や、お世話になった人に恩返しをしたいと思い、一転して医師になろうと決めました」。

医師人生がスタートした研修医時代、最初は精神科やホスピスケアに興味をもち、会話を通して患者さんを笑顔にし、癒すことができなかと考えていた。しかし、この進路を大きく変える転機が起こる。「研修中に呼吸器科を回っていたときに、診察していた患者さんが苦しい最期となり、とてもショックでした。当時の指導医の先生方が医師としても、人としても尊敬できる方だったこともあり、呼吸器内科へ進むことにしました」。家族への思いから医師を目指し、研修医時代に出会った患者さんや指導医の存在によって呼吸器内科への道を選んだ大江医師。これまでにさまざまな転機を迎えてきたが、「患者さんを笑顔にする」という思いはいまでも忘れていない。診療のために病室を訪れる際も、心を込めてノックし、思いやりの姿勢で患者さんと向き合う。さらにその思いは研修医指導にも表れており、「研修医には医師としての厳しさと、患者さんに満足してもらいやすいやがいを体感してほしい」と強く願い、一人ひとりの特性をみながら責任のある仕事を任せ、じっくりと成長を見守っている。

「いま進みたい科や方向が決まっていなくてもいいと思います。逆に、将来やらないであろうことをいまのうちやっておくと必ず役立ちますし、患者さんは職業や家庭など生活の背景が多様ですから、見聞を広めて人生観を豊かにしてほしいと思います」。

少し遠回りしたからこそ分かることがある。さまざまな経験による広い視野から、若手医師たちを見守り育てている。

# Dr's File : 07

